

2011-03-21 16:49 FROM ホウサイフアサ ケンチャウ4

TO トウセイカイジツ サマ

P.02

第42回福島県災害対策本部会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成23年3月21日（月） 10:20～10:50
- 2 場 所：災害対策本部・自治会館303号室
- 3 内 容：

【災害対策本部】

（1）最新の被害状況について

事務局：（第55報により説明）

（2）屋内退避区域内の市町村の意向による避難について

文化・スポーツ局長：

南相馬市の要援護者とその家族25名の移送先が栃木に決まった。これにより県外への避難は、市でも一区切りと考えているようだ。地元に残る方々の支援をしていきたい。

飯館村の避難は昨日で終了したので、残っている方々は（早朝に厚労省から簡易水道水から検出された放射性物質の値が基準値を超えたことが発表され）水でも苦労しているので本日から支援を行う予定。

知 事：

良く連携をして対応すること。

松本副知事：

今後の市町村の考えを確認して、災害弱者と言われる方々を最優先に対応すること。

文化・スポーツ局長：

南相馬市では一箇所に集まってもらうことを考えているようだ。

松本副知事：

県の連絡員と南相馬市・飯館村との意思疎通を密にして対応すること。

（3）避難所入居者情報センターにおける相談の状況について

企業局長：

昨日開設した情報センターの相談件数は348件で、13件について情報を提供できた。昨日20時からHPにも掲載した。

（4）県外に設置された避難所の支援について

観光交流局長：

2011-03-21 16:50 FROM ホウサイフクシマ ケンチャウ4

TO トウセイカイシツ サマ

P.03

6県の避難所の開設状況は、山形56箇所3,700人、新潟77箇所7,800人、群馬31箇所2,700人、栃木54箇所3,000人、茨城29箇所1,900人、埼玉36箇所3,600人となっている。

派遣した職員の話を経合すると、①地元の情報が入っていない、②将来に不安がある、③子どもの学校のことが心配といった声が多い。

(5) 物資の支援について

商工労働部長：

灯油は、おとといと昨日で各市町村を通じて避難所に届けている。

ガソリンは、政府のものを避難所にいる方に優先的に供給している。一般向けのガソリンは、県石油商業協同組合の話では、渋滞のないこの3連休を使って対応しており、徐々に良くなるとのこと。

物資については、避難所には物が入ってきている。個別の配送ルートを整えつつある。今までは食料・水が中心であったが、日用品の細々とした物に対応できるようにしたい。知事会・団体からの申し出については、市町村の意向を確認中。

知事：

避難所にいる方の下着、生活用品はどうなっているのか？

商工労働部長：

企業等から大口の申し出をいただいて対応している。

知事：

物資の長期的な見通しは？

商工労働部長：

整いつつあると考えている。

病院局長：

日産自動車から電気自動車リーフ2台の追加使用の申し出があった。昨日報告した名古屋市からの1億円相当の物資の申し出については、電気自動車を考えているが、市町村からも希望を取りたいと考えている。

松本副知事：

きめ細かな目配りをする。スクリーニングも峠を越えつつあり、徐々に避難所における医療・健康管理に回すこと。

県外の避難所については、6県の県庁と福島県との連携を図ること。

県外の避難所の名簿は作成されているのか？

企業局長：

いただいたものから避難所入居者情報センターのHPに掲載する。

2011-03-21 16:50 FROM ホウサイフクシマ ケンチャウ4

TO トウセイキカシツ リマ

P.04

(5) 放射線健康リスク管理アドバイザーの活動について

企画調整部長：

アドバイザーによる講演については、本日14時から福島テルサで行う。その他には、今週中に会津若松市で開催する方向で調整中。また、川俣町から開催の要望があるので、別途開催する方向で調整を行うこととしている。

知 事：

この件については、県民の不安が大きいのので、報道各社の御協力もよろしくお願いしたい。

松本副知事：

整理すると、①オフサイトセンターとの連携をしたモニタリング活動、②迅速かつ適切な対応、③放射性物質に関する正しい知識の速やかな周知、④相談体制の充実が必要となっている。

(6) スクリーニングの結果について

保健福祉部長：

3月19日のスクリーニングの結果は、検査を受けた方10,058人のうち、基準値を超えた方は1人のみで、除せんまでには至らなかった。

本日は、巡回実施が2市町村5箇所、常設は11市町村13箇所を実施する。

知 事：

これまでの累計の実施者数は？

保健福祉部長：

開始から19日までに66,685人のスクリーニングを行った。

知 事：

まず、20～30 km の屋内退避区域内の県民の不安の解消に向けた対応を行ってきており、不安も徐々に解消されつつある。物資も一步一步進んでいると思っている。

土木部には既に取りかかっているが、中長期的な対策として仮設住宅の準備をしっかりとってもらいたい。

2011-03-21 16:50 FROM ホウサイワシマ ケンチャウ4

TO トウセイカイシツ シマ

P.05

【原子力災害対策本部】

(1) モニタリング結果について

生活環境部次長：

別紙モニタリング1～4により説明。

(2) 飯館村の水道水から放射性物質が検出されたことについて

生活環境部次長：

今朝早朝、飯館村の簡易水道水から基準値の300ベクレルを超える965ベクレルの値が検出されたため、厚生労働省から飲料を控えるようにとの通知が出された。

農林水産部長：

飯館村への水の手当については、自衛隊の郡山駐屯地から9.6トンを選んでもらうこととしている。22日朝には仙台から10日分、150トンの水を飯館村に陸送する予定。

松本副知事：

県内の水道水の分析の計画は？

生活環境部次長：

今日から県内77箇所で検査を実施する。明日中くらいには結果が判明する予定なので、検査結果を見て対応を検討する。

(3) 原乳・農作物の放射性物質の検査について

農林水産部長：

原乳については、検査をしたところ、4市町村で基準値の300ベクレルを超えたので、県内全域で原乳の出荷自粛を要請した。

野菜については、前処理で手違いがあったため、確実な分析ができなかった。そのため、本日34市町村で再採取を行い、国の分析センターに送る予定だが、露地物野菜については、出荷の自粛要請を行ったところ。

知事：

風評被害もあるので、モニタリングについては、オフサイトセンターなど国の機関としっかりと連携を取ることに。

(4) 放射線に関する問い合わせ窓口の利用状況について

企画調整部長：

(別紙により説明)

第43回福島県災害対策本部会議(概要)

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日時:平成23年3月21日(月) 14⁹:20~14⁹:40
- 2 場所:災害対策本部・自治会館303号室
- 3 内容:

【災害対策本部】

(1) 最新の被害状況について

事務局:(第55報により説明)

(2) 屋内退避区域内の市町村の意向による避難について

文化・スポーツ局長:

南相馬市の在宅の要援護者とその家族の避難は、当初25名の予定であったが、2人が独自に移ったことから23名を本日避難させ完了させた。今後とも要援護者について、南相馬市と対応の調整を図っていききたい。

保健福祉部長:

医療機関の避難については、残る2病院も本日避難を完了した。

福祉施設については、2施設51名の避難が明日完了する予定。

松本副知事:

一定の見通しが立った。在宅の方については、南相馬市で人数の把握を行っていると聞いているので、それにより対応していききたい。

(3) 避難所に対する物資の供給について

商工労働部長:

避難所には食料品については回ってきた。日用品については、昨日までは需要の5割程度の供給であったが、県発注分が納入されたこと、倉庫を24時間体制としたこと、配送ルートができてきたことにより、本日は需要の7割程度の供給ができてきた。さらに改善していききたい。

現在、大人用の紙おむつ、生理用品、粉ミルク、ゴム手袋等の希望が多いことから、その対応を図っているところ。また、今後、需要が見込まれるカミソリ、熱冷ましシート等も増やしていく。充足率を上げていききたい。

(4) 県外に設置された避難所の支援について

観光交流局長:

6県に派遣している職員について、これまでは1名であったが、明日から2

名に増やして対応することとした。

東京、千葉、神奈川に開設されている避難所については、東京事務所が各府県と調整を行うこととした。

本日午前中の本部会議において、県内の情報が届かないとの声が報告されたが、福島民報、福島民友の御協力を得て、100名以上が避難している避難所に新聞を配布できることになった。

【原子力災害対策本部】

(1) モニタリング結果について

生活環境部次長：

別紙モニタリング1～4により説明。全体的に数値が下がっている。

(5) 放射線健康リスク管理アドバイザーの活動について

企画調整部長：

本日福島テルサでアドバイザーによる講演等を行った。会場は満員となり、予定時間を超過して質疑等を受けた。

22日は15時から川俣小学校体育館で、23日は同じく15時から会津若松市のワシントンホテルで開催する予定。広く県民の方々の参加をいただきたい。

知 事：

本日、あづま総合運動公園の避難所を訪問し激励をしてきた。

避難している方々は、世の中の情勢がどのようになっているかについて不安を抱えている。正確で的確な情報をしっかり確実に伝わるようにすることをここで確認したい。

訪問した避難所でも、一日も早い原発の収束を望む声が非常に多く、中には生活の再建を考えている方もいた。これらも包含しながら、避難所に派遣している職員がきちんと話ができるようにしなければならない。

政府に対しては、原発の事態の收拾に向けた対応など、これまで25回政府に要望や直接話を申し上げてきた。同席している国の皆さんにもしっかりとこのことを認識していただき、対応に当たっていただきたい。